

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 7 月 20 日 (2006.7.20)

【公表番号】特表 2002-520162 (P2002-520162A)

【公表日】平成 14 年 7 月 9 日 (2002.7.9)

【出願番号】特願 2000-559951 (P2000-559951)

【国際特許分類】

B 2 2 D 1/00 (2006.01)

B 2 2 D 11/11 (2006.01)

B 2 2 D 11/113 (2006.01)

C 2 1 C 7/10 (2006.01)

C 2 2 B 9/04 (2006.01)

C 2 2 B 15/14 (2006.01)

【F I】

B 2 2 D 1/00 K

B 2 2 D 11/11 B

B 2 2 D 11/113

C 2 1 C 7/10 B

C 2 2 B 9/04

C 2 2 B 15/14

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 5 月 25 日 (2006.5.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 熔融液状の金属、有利には熔融液状の銅を連続的に脱ガスし、引き続き、脱ガスされた金属を鑄造するための装置であって、供給された熔融液状の金属を収容する容器 (10, 20) と、脱ガスのために使用される真空室とが設けられており、熔融液状の金属のための流入部を有する第 1 の室 (20) 内に上昇管 (15) が突入しており、該上昇管 (15) の上端部が真空室 (17) に開口しており、該真空室 (17) の底部が、下降管 (16) に接続された流出開口を有しており、該下降管 (16) の、出口開口を形成する下端部が、流出ノズル (14) を備えた、鑄込み室 (13) として形成された第 2 の室に開口している形式のものにおいて、上昇管 (15) と下降管 (16) とに加熱装置 (19) が設けられていることを特徴とする、熔融液状の金属を連続的に脱ガスするための装置。

【請求項 2】 熔融液状の金属、有利には熔融液状の銅を連続的に脱ガスし、引き続き、脱ガスされた金属を鑄造する方法であって、この場合、金属熔融液を脱ガスのために第 1 の室 (20) から、浴液面高さよりも下方に位置する流入開口を備えた上昇管 (15) を介して、脱ガス室として働く真空室 (17) 内へ移送し、ただしこの場合、該真空室 (17) と第 1 の室 (20) との間の圧力差に基づき生ぜしめられる揚力だけを使用し、かつ別の圧送手段を排除して移送し、次いでこの金属熔融液を真空室 (17) から重力を利用して、鑄込み室 (13) 内の浴液面高さよりも下方に位置する下側の出口開口を備えた下降管 (16) を介して鑄込み室 (13) 内へ移送する形式のものにおいて、上昇管 (15) と下降管 (16) とを加熱することを特徴とする、熔融液状の金属を連続的に脱ガスする方法。